



鬼子母神堂

(きしぼじんどう)



<概要>

鬼子母神堂は、善復寺と並んで土居田町の住宅地にあります。慶長8年(1603)に、加藤嘉明が松山城主であった際に、本町の大法寺から、その分霊を迎えてお祀りしました。庵(鬼子母神堂)は、宝暦11年(1761)に設立され、昭和9年と昭和60年に改修工事を行ったようです。土居田の鬼子母神堂には専属の祈禱者が不在となったため、今では本山である大法寺(だいほうじ)に連絡して祈禱をお願いしています。



毎年旧暦2月28日を大祭日と定めており、保存会の人や参拝客で賑わうそうです。

敷地には、経石塔や正岡子規の句碑、耕地整理記念碑などがあり、土居田集会所が隣接しています。

<鬼子母神について>

鬼子母神は、子授け、安産、子育ての守護神として、昔から信仰されています。

鬼子母神には、500人とも1000人ともいわれるたくさんの子どもがいました。これらの子を養うために、日夜、子どもを盗んでは我が子に与えていました。そのため、多くの親たちが悲しんでいました。このことを聞いたお釈迦さまは、鬼子母神の末の子を隠してしまわれたのです。鬼子母神は狂ったように泣き悲しみ、探し回りましたが見つからず、お釈迦さまに助けを求めました。お釈迦さまは、親の子への愛情、子を失った悲しみは、誰でも同じであると説き、鬼子母神を戒めました。

鬼子母神はお釈迦さまの弟子となり、「法華経を読み、信ずるものを護って安穩にし、その人の気力や体力が衰えないようにしましょう」と守護神となることを約束しました。

土居田の鬼子母神堂に安置されている像は、お釈迦さまに戒められ、守護神となることを約束し、息子を返してもらい喜び勇んで変える姿を表わしています。いわゆる「霊山下り鬼子母神」と呼ばれるものです。

< 経石塔（きょうせきとう） >

本堂の前に、経石塔があり、中には経石（経文の一字一字を小石の一つ一つに書いたもの）を納めてあります。お題目を唱えて一心に祈願すれば、ご利益があると言われていいます。

※ お題目・・・南無妙法蓮華経のこと



< 句碑 >

蕙苴や普通いし叔父が家（じゅずだまやむかしかよいしおじがいえ）

子規

この句碑は、昭和47年に、350年祭（昭和31年）の記念として建てられました。裏面には、建立した年月と「蕙苴はじゅずだま」という注意書きがあります。）

この句は、正岡子規の父（常尚）の一番上の兄で、余戸に住んでいた佐伯政房の家をよく訪問したことを思い出して詠んだものです。

「蕙苴や」は、散策集では「鳩麦や」となっていますが、「寒山落木」で「蕙苴や」と改めています。

蕙苴（じゅずだま）は、昔は道端などによく見られたようです。ハトムギは、じゅずだまの栽培種であり、その実はじゅずだまにとってもよく似ています。



< 土居田耕地整理記念碑 >

大正11年（1922）に、この記念碑が建立されました。最初は、伊予鉄土居田駅踏切の交差点の近くにあったそうです。旧国道56号線に上水道の給水管を通す際、善復寺の境内に移し、その後、現在の位置に移したそうです。土居田の耕地整理は、大正2年12月に始まり、大正4年に工事を終わりました。短冊の形をした田が整然と並んだ状態になったことは、現在の土居田の道路が東西南北に伸びていることからもうかがい知ることができます。



参考資料

敷地内にある説明書（土居田鬼子母神保存会）や、句碑の説明書（松山市教育委員会）、「たちばなの郷」（平成15年 郷編集委員会）を参考にしました。